

「平泉の文化遺産」 活用推進アクションプラン



平成 2 1 年 度

岩 手 県

目 次

第1章

1	アクションプラン策定の趣旨	1
2	実施期間	1
3	事業推進と進行管理	2
4	アクションプランが目指す姿	3

第2章

- 現在の姿と課題、施策の基本的な方向、実施事業 -

1	来訪者の受入態勢の整備	5
	もてなす —— 観光関連産業従事者等、地域住民	6
	導く —— サイン、案内板、道路標識	8
	迎える —— 駐車場、トイレ、休憩施設	10
	案内する —— IT、ガイド、通訳ガイド、案内所	12
	動く —— 交通機関等	15
2	魅力ある地域づくり	17
	活かす —— 平泉の文化遺産を構成する資産	18
	みがく —— 地域資源	20
	つくる —— まちづくり・景観	21
	保つ —— 農村空間	23
3	総合情報の発信と誘客事業の展開	24
	呼び起こす —— 新たなイメージ	25
	発信する —— 情報	26
	誘う —— 誘客・PR	28
4	地域を支える人と産業づくり	30
	繋がる —— 住民・団体	31
	見つめ直す —— 地域特性	32
	育てる —— 地場産業	34
5	全県・他圏域への波及	36
	拡げる —— 回遊・周遊ルート	37

第3章

	アクションプラン事業リスト	39
--	---------------	----

第 1 章

1 アクションプラン策定の趣旨

「平泉の文化遺産」は、世界遺産への登録を目指しています。

従来から、この地域は、中尊寺や毛越寺などを中心に、数多くの来訪者が訪れる国内有数の観光地でしたが、今後は、世界遺産候補地になったことに伴い、これまで以上に国内外からの注目が集まり、さらに多くの来訪者が訪れるものと見込まれます。

このため、本プランは、世界遺産の候補資産を構成する平泉町、一関市、奥州市の地域を中心に、来訪されるすべての方々に、この地域の魅力を感じていただくとともに、地域においても、世界遺産登録を契機としたまちづくりが、なお一層推進されるよう、「平泉の文化遺産」を活用した地域振興策として取り組むべき事項を示すために策定したものです。

なお、策定に当たっては、他の圏域や県内はもとより、東北地域への「平泉」効果の広範な波及も視野に入れるとともに、保存、活用の両面から必要となる取り組みについては、別途策定される保存のためのアクションプラン（保存管理推進アクションプラン）と内容的に重複して記載しました。

2 実施期間

本プランに掲げる取り組み事項は、平成 23 年の登録までに取り組むものと、これと並行して持続的に取り組むものとに分かれますが、前者については、平成 19 年度から 23 年度までの 5 年間で、また、後者については、平成 19 年度から 26 年度までの 8 年間で、それぞれ実施期間としています。

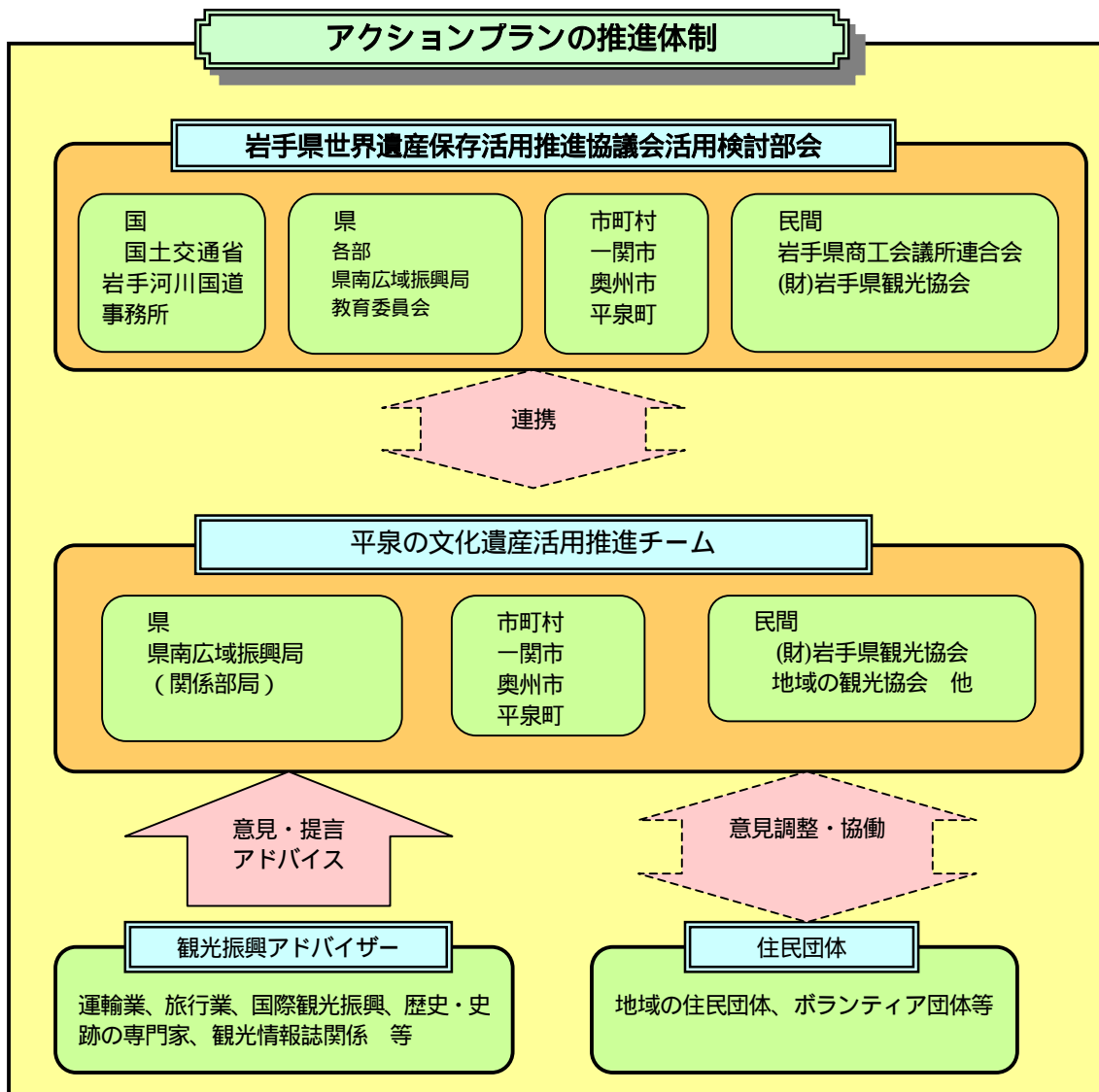
H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
← 平成 23 年の登録までに取り組む事項 →							
← 持続的に取り組む事項 →							

3 事業推進と進行管理

本プランに掲げる取組みの実施に当たっては、関係する国、県、市町や各観光協会
はもとより、地域の関係者の皆さんと強い連携を図りながら、共通認識のもとに一体
となって取り組んでいくことが重要です。

このため、本プランに掲げる取組み事項は、その内容に応じて、2市1町の各地
域や広域の単位で、さらに細部の検討や関係者間の調整を図り、推進していきますが、
全体の総合調整、進行管理及びプランの見直し等は、岩手県世界遺産保存活用推進協
議会及び同協議会の活用検討部会が担うこととします。

また、取組み事項を円滑に実施に移していくとともに、今後発生する個別具
体的な課題に対しても、迅速かつ機動的に対応するため、地域の関係者で構成する
推進チームを設置し、外部有識者や地域の住民団体の方々の助言も得ながら、調整・
協議を図っていくこととします。



4 アクションプランが目指す姿

自然と創造が織りなす国際的な歴史・文化都市「HIRAIZUMI」へ

現在、「平泉」の言葉から多くの方がイメージされるのは、「中尊寺」「金色堂」「毛越寺」に特定されがちだと思われませんが、かつて、奥州藤原氏が栄華を極めた当時、その勢力範囲は、北は外が濱（青森県）から南は白河関（福島県）までの広い範囲だったといわれており、平泉はまさにこの中心に位置し、政治・経済・文化の中心となっていました（別記、奥州藤原氏時代の「平泉」参照）

また、その根底には、この地に平和な世の中（浄土思想に基づいた都市）を造りたい、そして人々の安寧を実現したいという、藤原氏の崇高な理念がありました。

今、世界遺産の候補地となったことにより、地域のこうした歴史や文化にあらためて光が当たろうとしています。

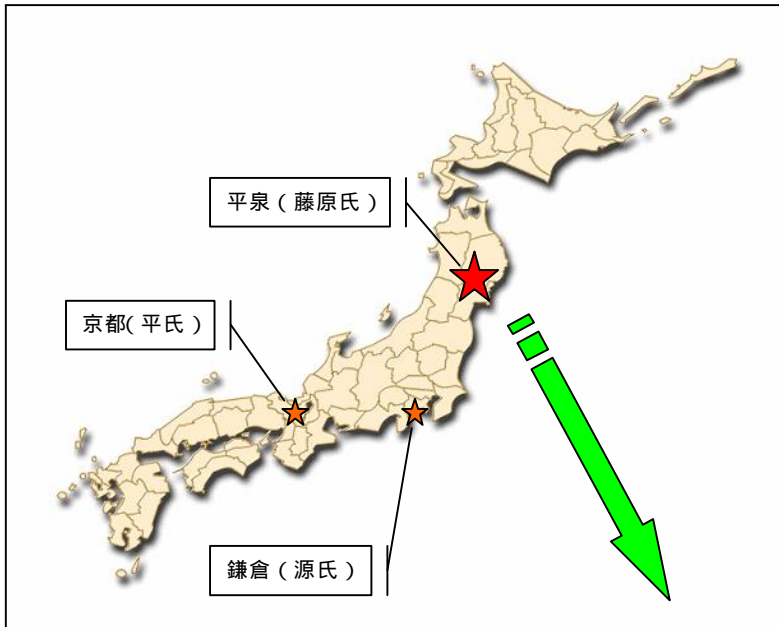
「平泉の文化遺産」は、インドから東アジアに伝播した仏教思想が日本古来の自然崇拜思想と融合した結果生み出された寺院や浄土庭園、関連する遺跡群で構成されており、現世に仏国土（浄土）が実現できると考えられていた人類の歴史の重要な段階を示し、極楽浄土信仰などの普遍的意義を持つ思想を今日に伝えていることに価値があるとされています。

私たちは、こうしたこの地域の歴史・文化や「平泉の文化遺産」の価値を踏まえ、今後は、これまでの「平泉」から、より広がりのある「平泉」へと、新しいイメージの形成を図りながら、国内外へ向けて広く情報発信し、定着させていく必要があります。

また、来訪者の方々に「平泉の文化遺産」の価値や魅力を伝えるためには、来訪者の方々の視点に立った受入態勢の整備や、周辺地域とも連携した魅力ある地域づくりを進めるとともに、来訪者を迎え入れる地域の方々にも、世界遺産登録を契機として、あらためて「平泉の文化遺産」に対する理解を深めていただき、この地域に暮らす誇りと自信を持って、その価値を守り育ていく機運を一層盛り上げていただくことが大切です。

私たちは、こうした課題等を克服するため、本プランに掲げた取り組みを一つ一つ着実に進め、「平泉の文化遺産」が、その価値を高めながら大切に引き継がれるとともに、「平泉」が、本県の掲げるソフトパワーいわて構想に基づく地域経営を実践するものとして、世界の方々の心を動かす力、岩手ブランドの一つとなり、これまでの「平泉」から、自然と創造が織りなす国際的な歴史・文化都市「HIRAIZUMI」へと大きく発展することを目指します。

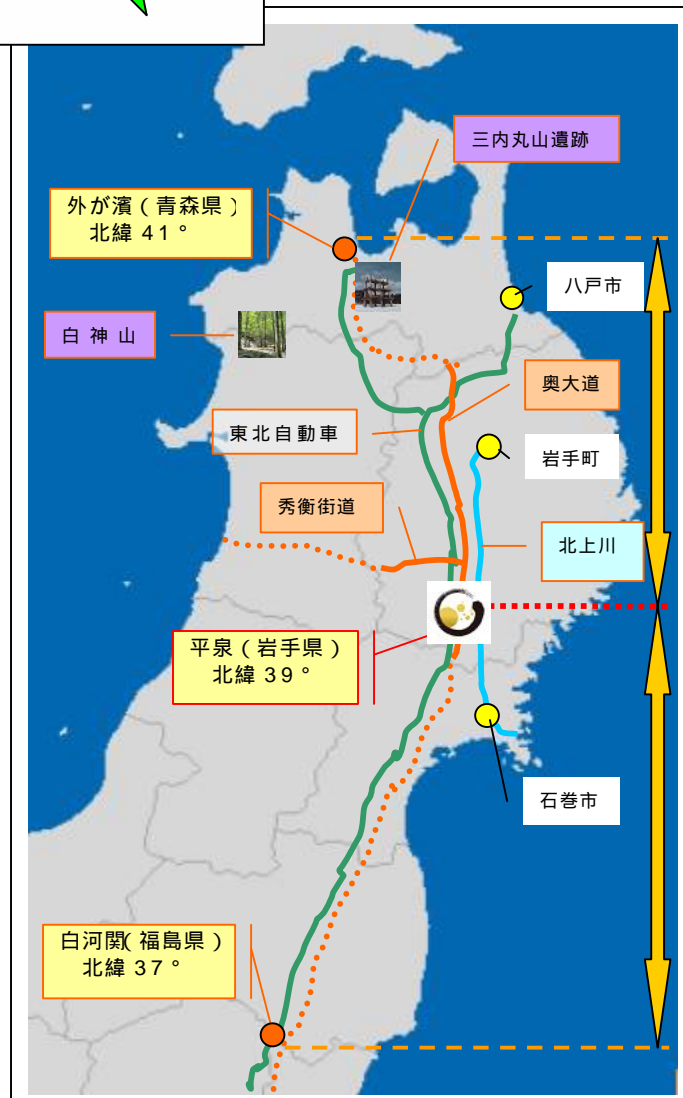
【奥州藤原氏時代の平泉】



12世紀の日本の勢力
 奥州藤原氏が一時代を築いた12世紀、特に藤原氏三代秀衡の時代には、政治的にも、西国の平氏、東国の源氏、奥羽の藤原氏と天下三分の形勢を呈していたといわれています。

奥州藤原氏の勢力範囲

当時の奥州藤原氏が勢力を及ぼした範囲は、現在の東北地方全域にわたり、北は外が濱（現青森県 北緯41°）から南は白河関（現福島県 北緯37°）となっていました。
 平泉（北緯39°）は位置的にもその中心の地に築かれ、当時の文化の中心として繁栄しました。



「奥大道」「秀衡街道」は、現存の資料をもとに想定して載せたものです。

第 2 章

第2章では、世界遺産登録を契機としたまちづくりを推進するため、来訪者や地域の方々の視点にたつて、「現在の姿と課題」を分析し、これに基づく「施策の基本的な方向」と、行政や民間が役割分担しながら具体的に取り組む「実施事業」を記載しています。

また、取り組み事項は、以下の5つの大きな柱立てから構成されていますが、その細目についての見出しは、取り組み内容を表す「行動」と、それら行動の「対象、手段・方法、主体」となるものを端的に記載しています。

1 来訪者の受入態勢の整備

- もてなす - 観光関連産業従事者等、地域住民（主体）
- 導く - サイン、案内板、道路標識（手段・方法）
- 迎える - 駐車場、トイレ、休憩施設（手段・方法）
- 案内する - IT、ガイド、通訳ガイド、案内所（手段・方法）
- 動く - 交通機関等（手段・方法）

2 魅力ある地域づくり

- 活かす - 世界遺産を構成する資産（対象）
- みがく - 地域資源（対象）
- つくる - まちづくり・景観（対象）
- 保つ - 農村空間（対象）

3 総合情報の発信と誘客事業の展開

- 呼び起こす - 新たなイメージ（対象）
- 発信する - 情報（対象）
- 誘う - 誘客・PR（手段・方法）

4 地域を支える人と産業づくり

- 繋がる - 住民・団体（主体）
- 見つめ直す - 地域特性（対象）
- 育てる - 地場産業（対象）

5 全県・他圏域への波及

- 拡げる - 回遊・周遊ルート（対象）

1 来訪者の受入態勢の整備

もてなす……観光関連産業従事者等、地域住民

導く……サイン、案内板、道路標識

迎える……駐車場、トイレ、休憩施設

案内する……IT、ガイド、通訳ガイド、案内所

動く……交通機関等



来訪者の受入態勢の整備

[観光関連産業従事者等、地域住民]

現在の姿と課題

来訪者を迎える観光関連産業の経営者・従事者の方々や、地域の方々が、おもてなしの気持ちをもって接することで、地域に対する印象が深まり、リピーターの確保にもつながります。

高齢者や体の不自由な方など、すべての来訪者の方々が安心して施設を利用できるよう、ユニバーサルデザインの考え方に沿った各種設備等への転換やおもてなしのあり方について、経営者の方々の意識の啓発を図っていく必要があります。

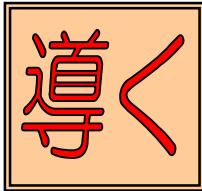
近年、海外からの来訪者が増加していますが、基本的な接遇や対応の仕方等について習熟するとともに、施設等における表示も、現在は、日本語表記が中心となっていることから、配慮が必要です。

施策の基本的方向

方 向 性	内 容
観光関連産業の従事者等の意識啓発	<p>エリア全体での受入態勢、おもてなし意識の向上を図るため、観光関連産業の従事者の方々等を対象とした継続的な研修機会等の確保に努めます。</p> <p>ユニバーサルデザインを所管する関係部局と連携しながら、施設の経営者、管理者等に対する意識の啓発に努めます。</p> <p>海外からの来訪者に適切に対応できるよう研修会等の開催や指差し対話カードの内容の充実などを図ります。また、日本語、外国語の併記例や先進事例の取り組みの紹介等、経営者の方々等の意識の啓発に努めます。</p>
地域住民の意識啓発	<p>地域の方々に対して、平泉の歴史文化に関する知識習得の機会を設けるとともに、受入等に当たってのおもてなし意識の大切さについて理解していただく機会を設けます。</p>

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
観光関連産業経営者、従事者の意識の啓発を目的とした各種研修会、講習会の開催（歴史文化、外国人対応、ユニバーサルデザイン、ホスピタリティー、食物アレルギー等）	岩手県					→			
観光カリスマや観光アドバイザーを活用した観光関連産業経営者や地域の意識改革	一関市、 奥州市、 平泉町				→				
おもてなしの心と豊富な観光知識で来訪者に対応できる「いわて観光おもてなしマイスター（宿泊施設や観光施設の従事者等）」の育成、認定	県観光協会			→					
観光関連産業従事者向けの外国人来訪者対応のための指差し対話カードの作成・充実	岩手県			→					
小中学生を対象としたユニバーサルデザインアイデアコンクールの開催	岩手県	→	完						
地域住民の意識啓発を目的とした歴史文化やホスピタリティーなどについての講習会等の開催	一関市、 奥州市、 平泉町				→				
来訪者の声を受入態勢の見直し、改善に結びつけるための取り組み	岩手県、 一関市、 奥州市、 平泉町								→



来訪者の受入態勢の整備

[サイン・案内板、道路標識]

現在の姿と課題

既存の周辺案内板には、世界遺産登録予定エリア全体を網羅したものがなく、表示内容も各スポット間の移動時間や距離の表示がないものがあります。

また、骨寺村荘園遺跡や白鳥館遺跡では、周辺案内板等が設置されていないため、来訪者の方々が移動に際して戸惑うことが予想されます。

県内の主な観光地など紹介する広域案内板も設置されていますが、世界遺産登録の動き等に対応した修正等が必要です。

既存の誘導案内板の中には、老朽化したまま修繕がなされていないものや、同一箇所に類似の誘導案内板が設置されているため煩雑な印象を受ける箇所がある一方、必要と思われるのに設置されていない箇所が見受けられます。

既存の各種案内板（周辺案内、誘導案内など）は日本語表記が中心となっていますが、今後ますます増加が予想される海外からの来訪者の方々にも分かるよう、適切な外国語併記を一層進める必要があります。

骨寺村荘園遺跡には、荘園遺跡全体の解説板が設置されていますが、個々の遺跡所在地には標柱は設置されているものの、補足の説明板等が必要と思われる箇所が見受けられます。

骨寺村荘園遺跡や白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡は、これまで多くの来訪者の方々を受け入れる地域ではなかったことから、歩行者の誘導に配慮した標識が十分ではありません。

来訪者の方々に世界遺産エリアであることを認識させるような、統一感のあるサイン、案内板、道路標識等の設置に一層努めることが望まれます。

施策の基本的方向

方 向 性	内 容
サイン、案内板等の適切な整備	<p>既存の周辺案内板の見直しを行うほか、世界遺産登録予定エリア全体を網羅した新たな周辺案内板の設置を進めます。</p> <p>広域案内板の内容の見直しや世界遺産登録の動きに併せた修繕に努めます。</p> <p>景観への配慮と統一感の醸成の観点から、平泉町の「公共的サイン整備指針」に沿って、来訪者の方々が分かりやすい誘導案内となるよう、案内標識等の適切な配置に努めます。</p> <p>また、適切な管理が行われるよう、管理方法等などについて検討します。</p>

サイン、案内板の適切な整備	海外からの来訪者の方々も戸惑うことなく自由に散策できるよう、各種案内板の表記の方法を検討します。 来訪者の方々に必要な情報を分かりやすく提供するため、解説板等の必要な改修を行うとともに、新たな解説板等の設置を検討し、整備に努めます。
案内標識の整備	幹線道路等の必要な箇所に、世界遺産エリアであることが認識できるような表現の案内標識の設置に努めます。
エリアの統一感の醸成	世界遺産エリア内の資産であることが分かるよう、シンボルマーク等を使用するなど、エリア内に統一感を持たせるような取り組みを推進します。

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
世界遺産登録エリア全体を網羅した周辺案内板の整備、既存の周辺案内板の修繕	岩手県、 一関市、 奥州市、 平泉町					▶			
骨寺村荘園遺跡を盛り込んだ観光案内板の設置（JR一関駅周辺）	一関市		▶	完					
骨寺村荘園遺跡内を紹介する狭域案内板の整備	一関市					▶			
広域案内板の内容の見直し、必要な修繕	岩手県							▶	
誘導案内板の整備（骨寺村荘園遺跡、白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡）	一関市、 奥州市							▶	
外国語併記観光誘導サインの設置	平泉町				▶				
遺跡解説板・標柱の設置（平泉町内の各遺跡、骨寺村荘園遺跡、白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡）	一関市、 奥州市、 平泉町							▶	
主要幹線道路への統一感のある案内標識の設置（平泉町内の各遺跡、骨寺村荘園遺跡・白鳥館遺跡・長者ヶ原廃寺跡）	岩手県、 一関市、 奥州市、 平泉町					▶			



来訪者の受入態勢の整備

[駐車場、トイレ、休憩施設]

現在の姿と課題

【駐車場】

平泉町営駐車場の誘導表示、区画線等は、冬期間の除雪等により削られるため、減耗の状態を見ながら必要な書き換えをしていく必要があります。

また、一度に著しく多くの来訪者が訪れた場合の混雑時を想定し、他の駐車場に効果的に誘導する方策を検討・推進する必要があります。

骨寺村荘園遺跡では、車で来訪された方々の駐車スペースは仮設の駐車場で対応していることから、早期の整備が望まれます。

【トイレ】

各地に設置されている公衆トイレは、表示も含めて周囲の景観に配慮した外観で設置されていますが、経年により表示が見えにくくなっています。

一部の公衆トイレではオストメイト対応になっていますが、未整備のものも見受けられます。

骨寺村荘園遺跡では、来訪者用のトイレは仮設トイレで対応しており、早期の整備が望まれます。

また、全エリアにおいて、来訪者にトイレを提供していただける各種店舗や一般家庭を増やしていく取組みも必要です。

【休憩施設】

特に中高年の方々にとっては、散策の合間に休憩できる空間・施設が必要です。

施策の基本的方向

方 向 性	内 容
駐車場内の表示の適正化	区画表示など、より一層適切な維持管理に努めるとともに、場内の誘導案内についても分かりやすく表示するよう改善に努めます。
駐車場の整備等	骨寺村荘園遺跡では、来訪者の方々の利便性も考慮しながら、適正な規模の駐車場の早期整備に努めます。 交通集中時を想定し、規制誘導による循環バス等への誘導や駐車場情報の提供による車両の分散化対策など、トータルでのマネジメントシステムを検討します。
トイレ表示の適正化	適切な誘導表示の設置や景観に配慮しながら、より分かりやすいトイレの表示に努めます。
ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備	より衛生的なトイレ施設への改善やユニバーサルデザインに配慮した多目的トイレへの改修を検討し、改善に努めます。

トイレの整備	骨寺村荘園遺跡については、ガイダンス施設等の整備に併せてトイレの整備を進めます。 来訪者に対してトイレを提供していただける各種店舗や一般家庭など、「おもてなし協力者」の確保に努めます。
休憩施設の整備	遺跡や景観に十分配慮しながら、主要スポット内にベンチや木陰等、散策の合間に休憩できる空間・施設を整備します。

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
大型観光バス等、車両の導線を考慮した適切な誘導表示等の設置	一関市、奥州市、平泉町					→			
町営駐車場の運営方法に関する検討	平泉町				→				
来訪者の入り込み状況に応じた対応策の検討	一関市、奥州市、平泉町								→
観光渋滞緩和に向けた交通マネジメントに関する検討と取組みの推進	国、平泉町		→						
ガイドの活動拠点施設に併設した駐車場・トイレの整備（白鳥館遺跡）	奥州市	→	完						
既存駐車場に併設したトイレの整備（長者ヶ原廃寺跡）	奥州市	→	完						
休憩施設の整備に併せた駐車場・トイレの整備（骨寺村荘園遺跡）	一関市					→			
公共公衆トイレの統一した分かりやすいピクトグラム（絵文字）の検討と掲示	一関市、奥州市、平泉町						→		
ユニバーサルデザインに配慮したトイレ施設への改修	一関市、奥州市、平泉町					→			
空き店舗等を活用した休憩所の設置運営の検討	平泉町					→			



来訪者の受入態勢の整備

[I T、ガイド、通訳ガイド、案内所]

現在の姿と課題

すべての来訪者の方々が自由に散策しながら「平泉の文化遺産」に関する理解が深められるよう、各種情報提供の手段の一つとしてI Tの活用が望まれます。

この地域の遺跡には、その佇まいだけで人々を魅了する遺産もありますが、歴史的な背景や遺跡としての価値に関する解説が加わって、さらに魅力が増すものが多いものと考えます。現状では、これらについての情報を提供するガイドダンス施設がなく、その整備が望まれます。

各地域では、ガイド団体が活発に活動していますが、ガイドをできる方が十分ではなく、さらにガイドを養成するとともに、相互に連携した取り組みを進めることも必要です。

ガイドの方々には、来訪者の方々の多様な興味・関心に応えられるよう、広範な分野の知識の習得が望まれます。

予想される海外からの来訪者の増加に対応できるよう、通訳ガイドの養成、確保が必要です。

案内所を利用する方々、特に高齢者や体の不自由な方が落ち着いて情報を入手・選択できるよう、休息できる空間や設備の充実が望まれます。

県央エリアや県境を越えた地域に関する情報の照会が多々あり、今後、さらに増加することが予想されます。今後は、広域エリアの案内機能や着地型旅行商品、ガイドの紹介など、さらなる案内機能の充実が望まれます。

「まちかど案内所」は、現在平泉町内にも設置されていますが、来訪者の方々の利便性向上のため、他のエリアにも設置することが望まれます。

また、設置箇所に関する情報も提供していくことで、来訪者の方々の活用機会が増えるとともに、地域との交流が深まります。

また、全てのエリアにおいて、来訪者に対する観光情報等の提供に協力していただける方々を増やしていく取り組みも必要です。

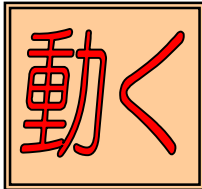
施策の基本的方向

方 向 性	内 容
I Tを活用した情報の提供	来訪者の方々が携帯端末等を利用して関連情報を入手できるよう、I Tを活用した情報提供システムの導入を検討します。

ガイドンス施設の整備	<p>来訪者の方々に世界遺産や平泉の文化遺産について分かりやすく情報提供する総合的なガイドンス施設の整備を推進します。</p> <p>骨寺村荘園遺跡や白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡では、ボランティアガイドの活動拠点となる新たなガイドンス施設等の整備を検討するほか、近隣の文化施設におけるガイドンス機能の拡充等について検討します。</p>
ガイドの確保・資質の向上等	<p>各エリアで活動するボランティアガイドを養成するため、地域の方々を含めたガイド養成に取り組みます。</p> <p>また、ボランティアガイドの組織強化等に努めます。</p> <p>世界遺産エリア関係市町で活動しているガイド団体の連携した取り組みを促進します。</p> <p>来訪者の方々の多種多様な興味・関心に応えられるよう、歴史文化のみならず、自然、風土、食など様々な知識の習得が図られるような取り組みを促進します。</p> <p>通訳ガイドの会の運営を支援しながら、さらなる資質の向上を図っていくとともに、将来的な通訳ガイドの確保のための対策を推進します。</p>
案内機器類の整備等	<p>増加が予想される来訪者に対応するため、他の先進的な取り組み事例などを参考に、案内所機能の在り方を検討しながら必要な設備等の整備を促進します。</p>
利用者サービスの向上	<p>案内所職員の資質の向上や案内所機能の充実に努めるとともに、各案内所の連携強化と情報の共有化を図ります。</p> <p>世界遺産登録エリア全体への「まちかど案内所」の設置に努めるほか、今後作成を検討する散策ガイドマップへの掲載等、設置場所に関する情報の提供に努めます。</p> <p>来訪者に対する観光情報の提供に協力していただける各種店舗、一般家庭等、「おもてなし協力者」の確保に努めます。</p>

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
ITを活用した観光情報提供システムの導入検討	岩手県					▶			
ユニバーサルデザイン観光情報提供システムの段階的な実用化に向けた検討	岩手県、 岩手県立 大学	▶	完						
平泉の文化遺産の総合ガイドンス施設の整備	岩手県、 平泉町		▶	完					
柳之御所遺跡のガイドンス施設の整備	岩手県								▶
ガイドンス施設の整備（骨寺村荘園遺跡）	一関市						▶		



来訪者の受入態勢の整備

[交通機関等]

現在の姿と課題

来訪者の増大に対応するためには、空港、新幹線、在来線等の一次交通の充実が必要です。

各遺跡・史跡間の移動や周辺観光スポットとの移動に公共交通機関を利用する場合の利便性は、まだ十分ではなく、二次交通の充実が課題となっています。

また、二次交通手段の提示は、新たな旅行商品の提案に当たっても不可欠な要素となります。

環境に配慮した新たな二次交通の導入が、他県では始められています。

各エリアの周辺道路のより円滑な通行の確保等が求められています。

施策の基本的方向

方 向 性	内 容
一次交通の充実	<p>いわて花巻空港の利便性を図るため新空港ターミナルを整備します。また、国際チャーター便の誘致拡大に向け、平行誘導路の整備に向けて取り組んでいます。</p> <p>来訪者の増加に対応するため、列車等の一次交通の充実や利便性の向上、利用者に配慮した施設への改修等について、関係機関、民間企業等に対し改善を働きかけます。</p> <p>スマートインターチェンジの設置可能性について検討します。</p>
二次交通の充実	<p>既存の路線バスと循環バスの連携や、統一料金を設定してのタクシー利用、レンタルサイクルの備え付け、環境に配慮した新たな二次交通の導入等、来訪者の方々のニーズの把握に努めながら関係機関等と協議し、二次交通の充実に努めます。</p>
周辺道路の整備	<p>各エリアの周辺道路の円滑な通行の確保に努めます。</p>

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
いわて花巻空港の利便性向上、国内外との交流の活性化を図る新空港ターミナルの整備	岩手県	→	→	→	→	→			
花巻空港整備事業（平行誘導路の整備）	岩手県			→	→				
いわて花巻空港二次交通アクセス改善事業（乗合タクシー運行支援）	岩手県 空港利用促進協議会	→	→	→	→	→	→	→	→
一次交通の充実と、その利便性の向上等に向けた関係機関、民間等に対する要請活動の検討・実施	岩手県、一関市、奥州市、平泉町	→	→	→	→	→	→	→	→
スマートインターチェンジ設置可能性の検討	平泉町、（岩手県）		→	→	→	→	→	→	→
二次交通の確保・充実に向けた関係機関との協議と、二次交通体制の整備促進（既存の路線バス、循環バス、観光タクシー、レンタサイクル、環境配慮型交通機関、他）	岩手県、一関市、奥州市、平泉町	→	→	→	→	→	→	→	→
一般国道342号巖美バイパスの整備	岩手県	→	→	→	→	→	→	→	→
国道4号平泉バイパスの整備	国	→	→	完					

2 魅力ある地域づくり

活かす……平泉の文化遺産を構成する資産

みがく……地域資源

つくる……まちづくり・景観

保つ……農村空間



魅力ある地域づくり

[平泉の文化遺産を構成する資産]

現在の姿と課題

骨寺村荘園遺跡の文化的価値を理解していただくには、中世の絵図と現状を対比して見るのが有効ですが、俯瞰できる施設が整備されていません。

また、来訪者の方々は、絵図に残され今も点在する田んぼや、遺跡等を歩いて巡ることが予想されますが、効率よく巡るルートも設定されていません。

白鳥館遺跡は住民の方々が生活を営む地域であり、来訪者の方々との交流が期待される半面、来訪者の方々が意図せずプライバシーを侵してしまうことが懸念されます。

長者ヶ原廃寺跡では、周辺に遺跡の発掘エリア等もありますが、こうした他の遺跡も関連付けたルートの検討も必要です。

骨寺村荘園遺跡や白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡は、来訪者の方々に分かりやすくその価値や魅力を紹介するためのガイド機能の充実が望まれます。

施策の基本的方向

方 向 性	内 容
平泉の文化遺産を構成する資産の活用	<p>骨寺村荘園遺跡を俯瞰できる展望台や解説板の設置について検討を行い、適切な整備に努めます。</p> <p>また、効率よく巡ることができるルートを所要時間ごとに設定するなど、来訪者のニーズに沿った散策ルートを開発します。</p> <p>白鳥館遺跡については、地域の方々のプライバシーに配慮した散策ルートを整備するほか、北上川を活用したルートについても検討します。</p> <p>長者ヶ原廃寺跡については、周辺の遺跡等とも関連づけた散策ルートを検討します。</p> <p>骨寺村荘園遺跡や白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡では、ボランティアガイドの活動拠点となる新たなガイド施設等の整備を検討するほか、近隣の文化施設におけるガイド機能の拡充等について検討します。</p>

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
展望施設等の整備（骨寺村荘園遺跡）	一関市								▶
骨寺村荘園遺跡内の遺跡の整備	一関市								▶
散策ルートの設定、整備（骨寺村荘園遺跡、白鳥館遺跡）	一関市、 奥州市								▶
北上川流域観光地域づくり実践アクションプログラムの推進	北上川流域観光地域づくり協議会					▶			
ガイダンス施設の整備（骨寺村荘園遺跡）(再掲)	一関市						▶		
ガイドの活動拠点施設の整備（白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡）(再掲)	奥州市					▶			
「牛の博物館」へのガイダンス機能の付加（白鳥館遺跡）(再掲)	奥州市					▶			
「衣川歴史ふれあい館」へのガイダンス機能の付加（長者ヶ原廃寺跡）(再掲)	奥州市					▶			



魅力ある地域づくり

[地域資源]



現在の姿と課題

周辺エリアには、あまり一般化していない地域資源などが点在しています。来訪者の方々に長く滞在していただくためには、これらも有効活用し、エリア全体での総合的な魅力づくりを進めることも必要です。

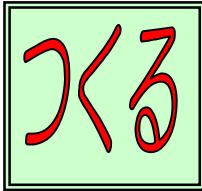
各地域には地域資源や人材などが眠っている可能性があります。今後、こうした未活用の地域資源等をブラッシュアップ、活用した、地域独特の魅力ある着地型旅行商品の検討・造成、エージェントへの提案が必要です。

施策の基本的方向

方向性	内容
周辺地域資源の活用	<p>認知度が低い等の理由から一般にはあまり立ち寄られなかった地域資源を活用した回遊型ルートを検討します。</p> <p>平泉文化に関連する古道や関連史跡等に関する情報の収集を行いながら、回遊ルートへの活用の可否について検討を行います。</p>
地域資源等の発掘、活用検討	<p>観光利用に限定せず広範な地域資源に関する情報収集を行い、これらを活用するためのブラッシュアップ等を検討します。</p> <p>また、新たな切り口からの活用など、魅力ある着地型旅行商品の造成に向けて検討を進めます。</p>

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
地域に埋没する観光資源等に関する情報収集や観光活用への検討	岩手県、 県南広域 振興局管 内各市町				▶				
旅行エージェントとタイアップしたモデルコースの検討（一般観光・教育旅行別に広域、小エリア散策コース etc）	岩手県、 奥州市				▶				



魅力ある地域づくり

[まちづくり・景観]



現在の姿と課題

この地域を来訪者の方々にとって魅力あるエリアとし、また、歴史の息づくこのエリアの特性を総体として保護していくためには、遺跡が所在する箇所だけでなく、周辺を含めたエリア全体が、世界遺産を保有する地域として相応しいものとなるよう、中期的・長期的な展望に立って、景観形成やまちづくりを推進していく必要があります。

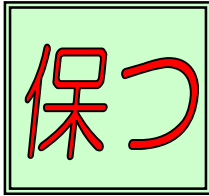
施策の基本的方向

方向性	内容
景観の形成・まちづくりの推進	<p>地域全体がまとまりある景観形成を図るため、地域が中心となって「平泉」の景観に適合したデザインを検討します。</p> <p>景観にそぐわない屋外広告物については、県の屋外広告物条例のほか、各市町における景観法に基づく景観計画において必要な規制を行うとともに、地元住民の理解と協力を得ながら、随時、撤去や修景をするよう努めます。</p> <p>現在、既にある土産物屋や食堂等の観光関連施設については、景観計画に合致した基準となるよう、関係者に協力を求めています。</p> <p>また、商業看板やのぼり、自動販売機についても、屋外広告物条例や景観計画の基準に合致するよう誘導に努めます。</p> <p>ガードレールや公共サイン、河川の護岸等、既存の公共施設の修復や補修を行う際は、景観に配慮したものとなるよう努めます。また、今後、新設するものについても、景観に配慮したものとなるよう努めます。</p>

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
景観適合デザインの検討	岩手県、 一関市、 奥州市、 平泉町				→				
違反屋外広告物の適正化 景観法に基づく景観計画による屋外広告物の規制	岩手県、 一関市、 奥州市、 平泉町								→
既存の観光関連施設等に関する関係者との協議の実施	奥州市、 平泉町				→				

既存及び新設の公共施設の景観適合 (ガードレール色調改善、中尊寺通りまちなみ整備、 河川の維持管理等)	岩手県、								
	一関市、 奥州市、 平泉町								▶



魅力ある地域づくり

[農村空間]



現在の姿と課題

一関市の骨寺荘園遺跡は、地元の方々の営農地域であり、水田景観を保全するためには、農作業条件の改善を図り、今後も持続的な稲作農業が営まれることが必要です。

また、その生活・生業を継続できる体制や仕組みを確立することが必要です。

施策の基本的方向

方 向 性	内 容
営農基盤の整備	<p>水田景観を永く保全するとともに、水田農業を継続するため、景観の保全に配慮しながら耕作条件の改善を図る景観保全農地整備を進めます。</p> <p>また、農産物の付加価値を高めるための取り組みや、営農を担う人材育成、市民ボランティア等の参加を促すための仕組みづくりを進めます。</p>

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）								
		19	20	21	22	23	24	25	26	
景観保全農地整備の実施	岩手県、一関市								▶	
地域営農、農地高度利用事業の実施（荘園米ブランド化、特産農産物生産、水田オーナー制 等）	一関市									▶

3 総合情報の発信と誘客事業の展開

呼び起こす……新たなイメージ

発信する……情報

誘う……誘客・PR



総合情報の発信と誘客事業の展開

[新たなイメージ]

現在の姿と課題

従来、「平泉」という言葉から連想されるのは、「中尊寺」「金色堂」「毛越寺」といった寺院等の限定的なイメージでしたが、今後は、世界遺産登録を目指す「平泉の文化遺産」として広がりのある新しいイメージを広め、定着させていく必要があります。

平泉の文化遺産を構成するすべての資産を新たな「平泉」のイメージの中でどのように位置づけるのか、また、平泉の文化遺産の特徴である浄土思想などをどのように伝えていくか、検討が必要です。

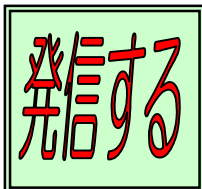
奥州藤原氏時代の経済を支えた古道（奥大道、秀衡街道）など、現在は地域資源として活用されずに埋没している史跡等もあります。

施策の基本的方向

方 向 性	内 容
新たなイメージの形成	<p>新たに制作した平泉の文化遺産のシンボルマーク、ロゴなどイメージコンテンツの積極的な普及に努めるとともに、ブランドイメージの確立に向け民間の活用を促進します。</p> <p>平泉の文化遺産の根底にある「平和の理念」や「自然との共生」の考え方などを分かりやすく伝えるための方策について検討しながら、情報発信に努めます。</p> <p>平泉文化に関連する古道等に関する情報の収集を行いながら、地域資源としての活用の可否や、イメージ形成への活用について検討します。</p>

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）								
		19	20	21	22	23	24	25	26	
新たな「平泉」のイメージ形成、情報発信に関する具体的検討	岩手県	→	完							
新たな「平泉」のイメージ発信のためのDVD、パンフレット等情報発信ツールの作成	県観光協会（岩手県）	→		→						
本寺地域（骨寺村荘園遺跡）を環境と景観を守り伝える日本の農村景観の代表としてのイメージ形成を検討	一関市									→
平泉と関連する古道（奥大道、秀衡街道）歴史、史跡等の観光活用やイメージ形成への活用検討等	岩手県	→				→				



総合情報の発信と誘客事業の展開

[情報]

現在の姿と課題

ホームページによる情報発信は、行政、民間がそれぞれ独自に開設していますが、必ずしも欲しい情報が得られやすい状況にはなっていません。

印刷媒体による情報発信は、各行政エリアごとに観光パンフレット等が作成されていますが、地図やデザインの統一等、来訪者のニーズに沿ったものにして行く必要があります。

世界遺産登録予定エリア内に設置されている各文化施設に訪れる方々に対する総合的・統一的な情報発信が必要であるとともに、各施設の連携した取り組みも必要です。

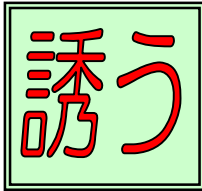
現在、主流となっている自家用車を使用した家族・グループでの来訪に対応した、効果的な情報提供を行い、誘客につなげる必要があります。

施策の基本的方向

方 向 性	内 容
総合的な情報発信	地域の様々な情報を国内外へ発信する手段として、既存の各ホームページの充実、相互リンクによる連携を図るなど、より使いやすいホームページづくりを進めます。 県南広域圏の各スポットを紹介するマップ等の作成に取り組みます。 また、世界遺産登録予定エリアの遺跡、史跡を関連付けて分かりやすく紹介するパンフレットやリーフレットづくりを進めます。
文化施設のアナウンス機能の充実	文化施設における情報の提供や施設間の情報共有のためのネットワーク化等に取り組みます。
情報提供サービスの充実	カーナビに表示されていないコアゾーンの表示について事業者を検討を要請するとともに、自家用車などでの立ち寄りが見込まれる施設（道の駅、サービスエリア等）での情報の提供に努めます。

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
平泉の文化遺産等に関するホームページの各開設主体における内容の充実、相互リンクによる相互補完体制の整備や総合的なホームページ等の開設検討	岩手県、 一関市、 奥州市、 平泉町、 県観光協会								▶
「平泉の文化遺産」総合案内パンフレットや県南広域圏の観光マップ（多言語版）の作成と道の駅やサービスエリア、周辺観光施設での情報提供	岩手県、 県南広域 振興局管 内各市町		▶						
各エリアごとの散策マップの作成	一関市、 奥州市、 平泉町			▶					
文化施設等への情報発信拠点としての機能の付加などやネットワーク化による情報提供機能の強化	一関市、 奥州市、 平泉町				▶				
カーナビへの表示検討要請	岩手県				▶				
北東北三県観光立県推進協議会や東北観光推進機構等の情報発信事業によるPR	岩手県				▶				



総合情報の発信と誘客事業の展開

[誘客・PR]

現在の姿と課題

平泉の文化遺産は本県が掲げるソフトパワー—いわて構想の象徴の一つであり、本県観光振興のみならず、いわてブランドの核として、その価値や魅力を国内外に継続して発信していく必要があります。

世界遺産登録を目指す平成 23 年及び翌 24 年には、地域や登録推進部局と連携し、平泉の文化遺産の価値や魅力を国内外に向けて強力に発信していく必要があります。

教育効果の大きい教育旅行先としての誘致やリピーター確保に向けて、体験型メニュー等の充実が望まれます。

首都圏や、これまでも入り込みの多い東北六県、特に仙台圏にターゲットを絞った、固定的な平泉ファン獲得に向けての取り組みも必要です。

また、今後、平泉の文化遺産の価値・魅力が浸透していくに伴い、これまで本県への入込みの少なかった地域（ex. 中国地方、山陰地方、九州地方、沖縄など）から、航空機を利用した新たな来客が期待できることから、こうした地域への PR にも積極的に取り組む必要があります。

いわて花巻空港へのチャーター便乗り入れ国の増加、大型航空機材や国際線の増加を見据えた新ターミナルビルの建設、仙台空港～仙台駅間の連絡鉄道が開業するなど、国外からの誘客を一層図るうえでの基盤が整備されつつあります。

施策の基本的方向

方向性	内容
PR活動の推進	世界遺産登録を目指す平成 23 年度までの間に県内外で開催される各種キャンペーン、イベント等において、積極的な PR 活動に努めます。
イベントの開催等	平成 23 年の世界遺産登録に合わせた記念イベントの開催や、国内外に向けた効果的なプロモーションの展開を検討します。 また、登録実現年度以降においても、あらためてこの地域に相応しいイベントの開催等を検討します。
体験型・参加型のメニュー・プログラムの創出	教育旅行の誘致やリピーターの確保、また、滞在・交流型の観光促進のための体験型、参加型メニューの充実に努めます。
ターゲットを絞った誘客	首都圏における歴史愛好家などコアな層を狙い、固定的な平泉ファンの獲得に向けた文化的催事などの開催などを通じて、これらの方々の誘客につなげる取り組みを進めます。
空港を利用した誘客の促進	これまで来訪者の入込みが少なかった地域からの誘客を促進するため、関西、九州地域における旅行エージェント等への働きかけや PR 事業を展開し、いわて花巻空港はもとより、近県空港を利用した旅行商品の造成を促進します。

インバウンド客の誘致促進	来訪者が増加している東アジア圏からの一層の誘客を図るため、国際旅行博等における誘客活動等を展開します。
--------------	---

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
いわて・平泉観光キャンペーンの開催	岩手県		→			→			
北東北（H19・7～9）デスティネーションキャンペーンや仙台・宮城デスティネーションキャンペーン（H20）でのPR事業の展開、北東北三県観光立県推進協議会や東北観光推進機構等の情報発信事業によるPR（JRとのタイアップ等）	岩手県					→			
世界遺産登録祈念・記念イベント（ex.漆文化展、伝統芸能祭）やPRキャンペーンの実施（首都圏、東北六県、仙台圏、県南広域圏等）	岩手県、一関市、奥州市、平泉町、県観光協会		→						
特別行事の開催検討	中尊寺 毛越寺								→
首都圏等のエージェント招待事業、マスコミ招待会、観光説明会の実施	岩手県、平泉町、県観光協会								→
県の県外事務所の協力を得た、首都圏マスコミ各社に対する継続した「平泉」情報の発信	岩手県			→					
旅行エージェントとタイアップしたモデルコースの検討（一般観光・教育旅行別に広域、小エリア散策コース etc）（再掲）	岩手県				→				
エリア内散策ルートを活用したウォーキングイベントの開催	一関市、奥州市、平泉町								→
人や地域との交流によるリピーター確保、滞在促進のための体験メニューづくり	一関市、奥州市、平泉町								→
首都圏での平泉の文化に関する歴史講座等や現地研修（ツアー）の検討・実施	岩手県			→					
東北六県を中心とした貸切バス事業者へのPR及び旅行商品造成の促進	岩手県				→				
北東北三県観光立県推進協議会のエージェント等招待事業や東北観光推進機構等への観光ルートの提案による広域観光ルートの検討・設定	岩手県					→			
関西、九州地域の旅行エージェント、マスコミを対象とした招待会や説明会の開催、一般市民に向けた観光PR展等の開催	岩手県、県観光協会					→			
国際観光誘客事業や海外で開催される国際旅行博でのPR	岩手県、平泉町					→			
いわて花巻空港を利用した旅行商品の造成支援等	岩手県空港利用促進協議会								→
海外現地新聞等による情報発信、現地コーディネーター配置	岩手県空港利用促進協議会								→

4 地域を支える人と産業づくり

繋がる……………住民・団体

見つめ直す……地域特性

育てる……………地場産業



地域を支える人と産業づくり

[住民・団体]



現在の姿と課題

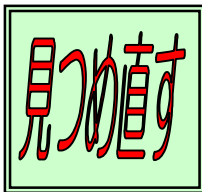
平泉の文化遺産とともに歩むまちとして、この地域のまちづくりを進めていくためには、地域住民が自主的、自立的に活動に取り組み、また、行政もこれと協働していく必要があります。

施策の基本的方向

方向性	内容
活動の体制づくりと協働・交流のネットワークづくり	平泉の文化遺産に関わって様々な活動を展開する推進母体の設立やそうした団体が広域的なネットワークを組織するなど、地域が主体となって自立的に活動していくことを支援します。

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
活動団体の育成と官民協働の仕組みづくり 広域的なネットワークづくり（ex. ボランティアガイド、サポーター、地域づくり協議会等の連携）	岩手県、 一関市、 奥州市、 平泉町					→			



地域を支える人と産業づくり

[地域特性]

現在の姿と課題

地域の大切な資源である平泉の文化遺産を将来にわたって保存・活用していくためには、若い世代を含めた地域の方々に、地域の歴史や文化を理解していただき、大切に守り育てていこうとする意識を一層高めていただく必要があります。

また、そうした意識は、地域に対する誇りを高めるとともに、来訪者の方々に対するホスピタリティーの醸成や、他の地域との交流など地域活動を進めるうえでの大切な素地となります。

平成 20 年 7 月に開催されたユネスコの世界遺産委員会における登録延期の決議を受け、県民の方々が平泉の文化遺産の価値を誤認したり、世界遺産登録に向けた機運が低下することが懸念されます。

このため、平成 23 年までの間、県民一人一人に平泉の文化遺産の価値を正しく認識していただき、世界遺産登録に向けた機運をこれまで以上に高めて行く取組みが極めて重要です。

施策の基本的方向

方 向 性	内 容
普及啓発・意識啓発	<p>県内外の方々に、史跡の価値や世界遺産についての十分な理解が図られるよう、様々な媒体、機会を利用して、普及啓発に努めます。</p> <p>また、次代を担う子供たちへの浸透が重要であることから、幼児期から「平泉の文化遺産」の価値に触れる機会を創出に努めるとともに、学校教育の場等を活用した普及啓発に努めます。</p>
機運醸成	<p>平成 20 年の世界遺産登録に向けて民間の方々が自主的に取り組んできた登録支援活動の内容を活用しながら、今後、官民が一体となった取組みとして県内外に向けた平泉の文化遺産の価値・魅力の発信に努めます。</p> <p>平成 23 年までの間、県民の意識啓発や世界遺産登録に向けた機運の維持、醸成を図るため、県民総参加型のキャンペーン等の開催に努めます。</p>

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
地域住民、支援団体、観光・交通事業者等を対象に「平泉」の価値や保存管理に関する研修会、講座等を開催	岩手県、一関市、奥州市、平泉町								▶
児童・生徒向けガイドブックを作成し、県内の小学校に配付し、補助教材として活用	岩手県、一関市、奥州市、平泉町								▶
小中学校において、出前講座を開催	岩手県、一関市、奥州市、平泉町								▶
地元の児童・生徒を対象に、郷土の歴史・文化を守り育て、世界遺産に関する知識を深めるため、ときめき世界遺産塾を開催	岩手県、一関市、奥州市、平泉町								▶
幼稚園・保育所等での紙芝居「みんななかよし ひらいずみ」の出前上演や、読み聞かせボランティアを活用した普及啓発	岩手県								▶
民間事業者の登録支援に向けた取組みと一体となった「平泉の文化遺産」魅力発見巡回展（仮称）の県内外での開催	岩手県								▶
県内報道機関等と連携した世界遺産登録に向けた意識啓発、機運醸成のための県民運動的キャンペーン等の開催	岩手県								▶



地域を支える人と産業づくり

[地場産業]



現在の姿と課題

多数の来訪者が訪れることを、地域の産業振興に結びつけ、経済効果を高めるためには、各関連産業の連携した取り組みが必要です。

当地を代表するお土産品として、南部鉄器や秀衡塗りの漆器など、本県を代表する伝統的工芸品がありますが、世界遺産登録に向けた機運の盛り上がりに応じ、これら伝統的地場産業の振興を図ることが求められています。

他の地域にはない地元の食材等を活用したオリジナルの食事や土産商品の開発と販売強化が求められています。

施策の基本的方向

方向性	内容
伝統工芸の振興	意欲のある事業者への支援や新たな担い手の確保、世界遺産登録に向けた関連のイベント等でのPR等を通じて、この地域の伝統的地場産業である南部鉄器、漆器等の伝統工芸の振興に努めます。
地のものの食、土産品の開発・販売促進	地域に伝わる郷土料理等、食文化の継承を図るとともに、農業や食品製造業等の他産業と連携した、地域食材等の活用などによる地域に根ざした新たなオリジナルの食、土産品等、いわゆる「地のもの」の開発を促進します。 地域の安全で安心な農産物等を販売する産直施設の開発を検討します。

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
本県を代表する伝統工芸品をストーリー性を持たせることで情報発信し、商品性の向上を図る（「いわての漆文化展」の企画・開催）	岩手県			▶	完				
伝統工芸品の垣根を越えた若手職人グループによる商品開発	岩手県			▶					
骨寺荘園米ブランドの確立、特産農産物の生産・加工・販売体制の整備	一関市								▶
地元特産品を活用したお土産品等の開発促進	岩手県、 一関市、 奥州市、 平泉町、 各市町観光協会			▶					

もち料理の特産品化、提供の仕組み（もち街道）づくり	岩手県、 一関市	—	—	→					
地元産直施設・加工施設の整備	一関市、 平泉町	—	—	—	→				

5 全県・他圏域への波及

拡げる……………回遊・周遊ルート



全県・他圏域への波及

[回遊・周遊ルート]

現在の姿と課題

県南広域圏には、花巻・西和賀エリア等に所在する温泉地や、日本の原風景として知られる遠野郷など、数々の地域資源が存在しますが、各エリアの連携が希薄なため、県南広域圏での回遊ルートが確立されていません。

また、県内全域への波及効果を図るためには、こうした回遊ルートからさらに広域につなげる周遊ルートの確立が必要です。

併せて、北東北三県、東北六県での広域連携等による広域周遊ルートの検討も必要です。

世界遺産登録を機会に、これまで本県への入込みの少なかった地域（ex. 中部地方、中国地方、山陰地方など）から、いわて花巻空港を利用した新たな来客が期待されます。

県南エリアから三陸沿岸エリアへの主要なアクセス道路である国道283号線の改良が進み、移動時間が短縮されるなど、三陸沿岸エリアへのアクセスが改善されつつありますが、隣県や三陸エリアへの周遊ルートを確立するため、東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和）などの広域的な交流を促進する道路の整備が必要です。

施策の基本的方向

方 向 性	内 容
広域回遊・周遊ルートの設定、商品提案	<p>県南広域圏を回遊させるため、各地域の関連産業が連携した回遊ルートの設定に取り組みます。</p> <p>また、旅行商品として提案するため、モニターツアー等を実施するなど、参加者の意見等も参考にルートを検討します。</p> <p>さらに、県内全域への波及を考慮した県域での新たな周遊ルートや、近県との連携による広域周遊ルートを検討します。</p> <p>これまで来訪者の入込みが少なかった地域からの誘客を促進するため、中部、関西地域からのいわて花巻空港を利用した回遊・周遊ルートの検討や、県南エリアから三陸沿岸エリアへの誘導を想定したルートなども検討します。</p>
広域的な道路の整備	<p>東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和）などの広域的な交流を促進する道路の整備を進めます。</p>

実施事業

事業の概要	実施主体	実施期間（年度）							
		19	20	21	22	23	24	25	26
本県の多様な観光資源を活用した旅行商品の造成支援	県観光協会					▶			
県南広域圏の観光資源を活用した旅行商品の造成	岩手県、 いわて県 南広域圏 観光産業 振興推進 協議会								▶
宮城県北への周遊を視野に入れたルートマップの作成	一関市	▶	完						
東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和）の整備	国								▶
国道342号花泉バイパス、国道284号真滝バイパスの整備等	岩手県								▶

第 3 章

第3章は、アクションプランに掲げる事業リストを記載しています。
今後のプランの進捗管理は、このリストにより行なっていきます。

IT、ガイド、通訳ガイド、観光案内所(続き)	36	通訳ガイドの会の運営支援、資質向上のための研修会等の開催	岩手県																	県南局
	37	地域限定通訳案内士試験制度の導入・運用	岩手県																	観光課
		おもてなしの心と豊富な観光知識で来訪者に対応できる「いわて観光おもてなしマイスター(観光ボランティアガイドや観光案内所の職員等)」の育成、認定(再掲)	県観光協会																	
	38	案内機能の充実と観光客の利便性の向上を図るための情報機器類の整備	市町観光協会																	
	39	各エリアへの「まちなか案内所」・「おもてなし協力者」の設置・確保、拡大、機能の充実検討	岩手県、一関市、奥州市、平泉町																	観光課
	40	いわて花巻空港の利便性向上、国内外との交流の活発化を図る新空港ターミナルの整備	岩手県																	空港課
	41	花巻空港整備事業(平行誘導路の整備)	岩手県																	空港課
	42	いわて花巻空港二次交通アクセス改善事業(乗合タクシー運行支援)	岩手県空港利用促進協議会																	空港課
	43	一次交通の充実と、その利便性向上等に向けた関係機関、民間等に対する要請活動の検討・実施	岩手県、一関市、奥州市、平泉町																	県南局
	44	スマートインターチェンジ設置可能性の検討	平泉町、(岩手県)																	(道路建設課)
	45	二次交通の確保・充実に向けた関係機関との協議と、二次交通体制の整備促進(既存の路線バス、循環バス、観光タクシー、レンタサイクル、環境配慮型交通機関、他)	岩手県、一関市、奥州市、平泉町																	県南局
	46	一般国道342号蔵美バイパスの整備	岩手県																	道路建設課
	47	国道4号平泉バイパスの整備	国																	

区分		事業概要	事業主体	実施期間(年度)																
				H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26									
平泉の文化遺産を構成する資産	48	展望施設等の整備(骨寺村荘園遺跡)	一関市																	
	49	骨寺村荘園遺跡内の遺跡の整備	一関市																	
	50	散策ルートの設定、整備(骨寺村荘園遺跡、白鳥結遺跡)	一関市、奥州市																	

2 魅力ある地域づくり

